

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)  
**A**: 十分達成できている  
**B**: おおむね達成できている  
**C**: やや不十分である  
**D**: 不十分である

学校名	唐津市立切木小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標を実現するために、学校の様々な場面で自己決定の場を設定し教育実践及び授業改善に取り組んできた。また、共感的な人間関係を構築するために、道徳科の学習や縦割り活動を通して、学年の枠を超えた児童同士の自己理解や他者理解の深化に努めてきた。今後は、プログラミング学習を中心に論理的に思考し表現する力(気付きや考えを具現化する力)の育成を図る。 ・「唐津の学びのスタイル」を基に、校内研究や授業改善及びGIGA端末利用促進の取組を進めてきた。その結果、児童及び保護者の意識調査では、「授業の内容理解」や「個に応じた授業改善」の項目において肯定的な意見が9割を超える結果となった。また、学力面においても、佐賀県学力・学習状況調査では、半数の調査において県の正答率を上回る結果となった。今後は、課題が見られた教科及び領域の指導法改善を図ると共に、GIGA端末を利用した学力向上の取組を推進していく。 ・地域との連携を深めるために、メールやホームページを活用した情報発信に努めてきた。また、地域の方々の意見や願いを基に、地域と学校が一体となって様々な活動を行ってきた。コロナによる規制が緩和の方向に向かう今年度は、以前に行っていた行事の見直しを含め、児童の郷土愛情勢のために、地域と学校が一体となる取組を推進する。
2 学校教育目標	テーマ:笑顔はじける切木小学校 学校教育目標 「自ら 気付き 考え 実行する」児童の育成 ～「出番、役割、関わり、承認」を通して～
3 本年度の重点目標	3つの重点目標 ① 自ら学ぶ児童の育成 ② 「思いやり」の心をもつ児童の育成 ③ たくましい心と体をもつ児童の育成

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
(1)共通評価項目											
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●唐津市の学力向上の取組である「唐津の学びのスタイル」に係る児童の意識アンケートの評価項目平均2.5以上	・教職員間で「唐津の学びのスタイル」の「個別最適な学び」「協働的な学び」を共有するとともに、校内研修等により取組を推進する。							・学力向上対策コーディネーター(井上)	
	○授業規律と学習の進め方の工夫「わかる・できる・楽しい」授業づくり	○「授業がよく分かる」と回答する児童や保護者90%以上 ○根気強く問題解決できる児童の割合80%以上	・「唐津の学びのスタイル」に基づいた授業実践において「自己決定の機会の充実・自己理解の促進・共感的な人間関係の育成」を目指した指導の充実を行う。 ・論理的思考を高めるためのプログラミング教育の授業実践を推進する。							・学力向上対策コーディネーター(井上) ・研究主任(永石)	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、友達と話し合ったりする活動をしていると思う」と回答した児童85%以上 ○「温かな心・言葉・行動」ができたと思うと回答した児童85%以上	・道徳科を中心に自己理解や他者理解を図り、様々な教育活動において人権意識の向上に努める。 ・縦割り班活動や体験活動を通して「心の教育」を充実する。							・道徳教育推進教師(徳永) ・人権・同和教育担当者(佐志) ・特活部	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的対応ができていると回答した教員85%以上 ○いじめをしていないと回答する児童85%以上	・生徒指導及び児童理解に係る共通理解を行う場を学期に2回設け、全職員で児童を育てる体制と意識づくりに努める。 ・いじめと体罰に関するアンケートを実施すると共に、学期に1回、教育相談の充実を図る。 ・全校児童が集まる際に適宜、挨拶や返事に係る紹介を行うことで、学校全体の意識を高める取組を推進する。							・生徒指導主事(井上) ・生活部	
	○いじめを許さない風土づくり	○「明るく元気な挨拶・返事ができた」と回答する児童85%以上	・地域人材や身近な方々を活用し、「なりたいたい自分になる」ためのキャリア教育を意識した取組を推進する。 ・マナー検定(卒業検定・修了検定)を実施し、目標を明確にした活動を仕組む。							・指導教諭(井上) ・特活部	
	○夢や目標に向かい努力しようとする気持ちを育む教育活動の推進	○夢や目標をもっている児童85%以上 ○マナー検定(卒業検定・修了検定)での合格者90%以上	・外遊びの奨励及び、個人の目標を設定したスポーツチャレンジに取り組みさせる。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」カードによる取組を行い、家庭と連携して望ましい生活習慣の意識付けを行う。								・体育主任(濱井) ・養護教諭(福島) ・保体部
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	○授業以外(昼休み等)で、外での運動やスポーツを行う児童85%以上 ○スポーツチャレンジ前に、練習をしている児童85%以上 ○「早寝・早起き・朝ごはん」の実施率90%以上	・外遊びの奨励及び、個人の目標を設定したスポーツチャレンジに取り組みさせる。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」カードによる取組を行い、家庭と連携して望ましい生活習慣の意識付けを行う。							・体育主任(濱井) ・養護教諭(福島) ・保体部	
	○望ましい生活習慣の形成	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)								
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。月平均45時間を超えない割合87% ●定時退勤日設定時間の達成率87%	・業務内容の精選及び勤務時間運用の効率化を行う。 ・曜日毎に退勤時刻を設定し、定時退勤の取組を推進する。							・管理職	
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)									
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別な配慮を要する児童への理解が向上した教員80%以上	・特別支援に関する研修会を実施し、児童を理解するために必要な資質の向上を図る。 ・校内支援委員会を行い、児童を理解すると共に対応の共通理解を図る。							・特別支援コーディネーター(徳永)	
○プログラミング教育推進	○一人一台端末を活用した授業の研究	○一人一台端末を活用したプログラミング学習を実施した教員80%以上	・校内研究による教員のプログラミング教育への理解の向上を図る。							・研究主任(永石)	

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・ ・ ・
----------------	---------------------------------------